

令和6年度(2024年度) 学力向上プラン

伊丹市立荒牧中学校

令和6年度 全国学力・学習状況調査結果

各教科平均正答率

	自校	伊丹市	全国
国語	57	59	58.1
数学	56	56	52.5

学習状況調査

(質問番号)質問内容		* 肯定的な回答の割合		
		自校	伊丹市	全国
(1)朝食を毎日食べている		90.1	91.8	91.2
(9)自分には、よいところがあると思う		86.9	82.7	83.3
(11)将来の夢や希望をもっていますか		77.1	64.0	66.3
(27)授業で、ICT機器を、どの程度使用しましたか(週3回以上)		81.5	84.9	64.4
(29)授業で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたか		52.5	56.8	64.8
(30)授業では、課題の解決に向けて、自分から取り組んでいたと思う		77	74.9	80.3
(42)国語の勉強は好きだ		71.1	60.7	64.3
(国1)最後まで解答を解こうと努力した		83.1	79.6	72.0
(50)数学の勉強は好きだ		57.4	57.0	57.2
(数1)最後まで解答を解こうと努力した		74.3	61.8	50.0

※学校独自の枠を追加することは可能

令和5年度成果と課題(R5学力向上プランから)

【成果】

- 「自分には良いところがある」の項目で、全国平均より10.5p上回った。
- 「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目で、全国平均より5.2p上回った。
- 「将来の夢や目標をもっている」の項目で、全国平均より9.1p上回った。
- ・学級
- ・英語
- ・ALT
- ・週2回の『コミトレ』を通して、読む・聞く・書くをトレーニングすることで、自分の意見説明するために、考え、書き、表現(説明)することに抵抗が少なくなっている。数学教え合い学習(RoseTime)のアイスブレイクとして活用したことで、異学年の意見を直接見聞きする機会ができた。
- ・国語
- ・英語
- ・数学
- ・文章題の短い文章が何を求めているのか理解することが難しい。
- ・家庭
- ・家庭時間のタイムマネジメントが苦手なため、自分で計画を立てて勉強できていない。

【課題】

- ・家で、自分で計画を立てて勉強している」の項目では、全国より14.8p低い
- ・連絡帳で、毎日帰宅してからのタイムマネジメントをできるよう担任が指導し、ていねいにチェックしているが、家庭学習の時間が増えない。
- ・国語
- ・英語
- ・数学
- ・文章題の短い文章が何を求めているのか理解することが難しい。
- ・家庭
- ・家庭時間のタイムマネジメントが苦手なため、自分で計画を立てて勉強できていない。

R5学力向上プランの取組による令和6年度調査の成果と課題

【学力・学習状況調査における成果】

- ・国語、数学ともに、おおそ全国平均正答率であった
- ・国語、数学ともに、無解答率では全国より25pをトップに、説明する、要約する、証明する問題に粘り強く取り組み、思考・判断・表現の記述式に挑むことができた。ただ、意図していることを理解して自分の思考を整理し、表現(文章化)することの正確性に欠ける。
- ・結果チャートでは、学力は標準であるが、自己有用感が高く、学校生活集団の中に居場所があり安定した環境にあると思われる。
- ・将来の夢や目標を持っているのは全国より10p高く、自分には良いところがある、学校に行くのが楽しい、友人関係に満足している、幸せな気持ちになる、先生は良いところを認めてくれるなど、“1.”を選択している割合が高い。

【国語】

- ・国語の勉強が好きで、大切だと思っている生徒は全国より多いが、学んだ知識・技術を使って、自分の考えが伝わる様に工夫をしたり、他者の意見から考えを広げ深めたりすることに課題がある。

【数学】

- ・数学の勉強は大切だ、社会に出たとき役立つと感じている割合が全国平均より5p高い。
- ・着目したい項目は3点 数学で学んだことを生活の中で活用できないかと考える、問題の解き方がわからないときに諦めずいろいろな方法を考える、問題が解けたとき別の解き方を考えようとしている が、全国平均より高かったことで、勉強を通して身につくべき力がついている。
- ・◎2教科に共通していることは、無回答率が全国より25p下回った項目をトップに、31問中27問が全国を下回っていました。説明する、要約する、証明する問題に粘り強く取り組み、特に、思考・判断・表現の記述式には全国と大きな差がみられるほど、挑むことができていた。
- ◎「将来の夢や目標をもっている」の項目で、全国平均より10.8p上回った。
- ◎「自分には良いところがある」の項目で、全国平均より「当てはまる」は9.9p、肯定は全国平均より3.6p上回った。
- ◎「学校に行くのは楽しい」の項目で、全国平均より5.3p上回った

令和5年度改善策(R5学力向上プランから)

- ・結果及び今後の取り組みについて、職員会議等で校長から説明し、全教職員で共有する。
- ・「めあての明示」→「個人思考」→「集団思考」→「ふりかえり」の流れによる協同学習の授業改善をすすめる。
- ・QUの検査結果とCRTの結果を照らし合わせながら、「教え合い学習」を取り入れ、生徒の得意分野を活かして、生徒主体の授業をつくるための授業改善を進める。
- ・「基礎学力の定着」の手法を各教科で検討し、計画的、継続的に取り組む。
- ・できるところ、できたところを認め、伸ばす環境をつくる。自尊感情、自己肯定感の向上を目的とした「教え合い学習」を全教科で取り入れる。
- ・教師の共通理解として、「人財育成」を意識した教育活動を目指す。

【国語】

- ・様々な意見に触れる楽しさを教えるためにも、教師による一方通行の授業から脱却し、教え愛学習を普段の授業から率先して取り入れていく。
- ・ボトムアップを目的とした、「置き去り」にしない授業を意識していく為に「教え合い学習」や「対話的な活動」など主体的に参加できる場をつくる。

【数学】

- ・習熟度別授業を行うことで、それぞれのレベルに合った授業を展開していく
- ・家庭学習を定期的に配布するなど、家庭での学習習慣の確立を図る。
- ・「教え合い学習」ができる環境作りを行う。

【理科】

- ・実験、観察の回数を増やす。また、その時間の目的や、それぞれの実験操作の意味をしっかりと理解させ、目的意識を持って取り組みます。「教え合い学習」ができる環境作りを行う。

【社会】

- ・タブレット等のICT機器の活用で、意欲的な生徒は増加している。引き続き視聴覚に訴える授業を行うとともに、定着率を上げるための単元ごとの振り返りや見直しを行い、知識の定着を図る。

【英語】

- ・習熟度別授業を行うことで、それぞれのレベルに合った授業を展開していく。
- ・帯活動を取り入れ、既習した文法事項を含む英文を繰り返し音読させる。
- ・授業において、基本文の音読練習や会話、そして自己表現活動の量を増やしていく、発展・応用につなげていく。
- ・自己表現活動を定期的に行う。
- ・レッスンごとに単元テストを実施し、学習内容の理解度を上げる。

令和6年度 改善策

【今後の取組】

安全安心な居場所のある学校生活環境づくりを目指す

【重点的に取り組むこと(つけない力)】

- ・“在りたい未来”を自身で描き、目標をたて、計画的に取り組む態度
- ・自分の良さや可能性を認識する
- ・主体的に他者とも協力・協働しながら新たな価値を創造していく力

【具体的にに取り組むこと】

- ・ROSEタイム(生徒同士の教え合い学習)の継続
- ・全教科で、自尊感情、自己肯定感の向上を目的とした教え合い学習の充実(得意な教科で、チューターとして活躍の場を作り生徒に授業をさせる)
- ・できるところ、できたところを認め、伸ばす環境をつくる
- ・授業では、「めあての明示」→「個人思考」→「集団思考」→「振り返り」の流れを基本とし、めあてを共有し見通しをもたせ、振り返りでは、教科横断的、生活につながる事を意図した振り返りをする
- ・コミュニケーション・トレーニングの継続(ROSEタイムのアイスブレイクにも活用)
- ・“未来につながる連絡帳”の活用で、小さな変化やSOSに対応、帰宅してからのタイムマネジメント確立
- ・終業学習で、基礎基本を繰り返し取り組み、単時間で正確に解けるよう演習
- ・時事にあわせた目的、見通しのある、職員研修、自主研修の実施
- ・教師の共通理解として、「人財育成」を意識した教育活動を目指す。

◎全国学力・学習状況調査は、教育課程の中で全ての教科が意識して3年間を見通してつけさせたい力をつけるための取り組みが必要である ◎社会的能力を効果的に育成するカリキュラム、仕掛けが必要である (対人能力・共感性、自己理解能力、感情抑制力などを育成するための学習や体験)

各教科の分析に基づいた具体的取組

	1年	2年	3年
国語	・社会生活に必要な国語の知識が身に付けられるよう、漢字テストを定期的実施する。 ・伝え合う力を高めるため、自分の意見を言葉にして表現し、互いに評価しあう場面を多く設定する。(教え合い学習) ・音読を通して、文章をまとまりで捉えられるよう指導する。	・社会生活に必要な国語の知識がつけられるよう漢字テストを、初見の文章を読み解く力をつけるためドリル活用した時間を授業始めにとる。 ・筆者の表現や自分の表現にこだわりをもち、説明させる活動を多く設定する。その中で他者の表現に触れ言葉の力を養う。(教え合い) ・生活に根ざした話題に触れ、テーマ設定し、他者と協力しながら議論することで論理的に、多面的に思考する力を養う。	・社会生活に必要な国語の知識がつけられるよう、授業始めに漢字テストを実施する。 ・単元に関する内容と自身の生活をつなげられるよう振り返り等において表現する機会を設ける。 ・問題集等を活用し、論理的に考える力を養う。また、正答率が低い問題において生徒に説明させる場面を設け、定着を図る。(教え合い学習)
数学	・ペアやグループで計算問題の教え合いを行い基礎的な計算能力を、思考を伴う問題では意見の交流を行っている。 ・毎時間の振り返りを行い、学習内容の定着を図る。 ・テスト後はテスト直しプリントを用いて、学習内容の復習を行っている。	・ペアやグループで教え合う機会を設け、基礎的な計算能力をつけさせる。 ・毎時間振り返りを行い、学習内容の定着を図る。 ・テストごとに間違えた問題のやり直しをさせ、問題に触れる機会を増やす。 ・単元ごとにテストを行い、苦手な問題の再確認をすることで学力の向上につなげる。	・習熟度別授業を行うことで、より細やかに個に応じた指導をおこなう。 ・復習ノートを作成し、毎授業で重要な問題を解き直すことで基礎・基本の定着を図る。 ・数学的な用語を正しく使い、解法を説明する機会をつくるようにする。 ・生徒同士で解法の確認、教え合いを毎授業で行う。
理科	・授業の目標を明示することで、授業でつけるべき力を確認する。 ・授業の初めに前時の復習として5問の小テストを行うことで基礎知識の定着を図る。 ・話し合い活動や教え合い活動を行う中で、自身の意見をまとめたり、他者の意見を注意深く聴く力を磨き、思考力を身につける。	・授業の始まりに「本時の目標」を明示し、授業でつけるべき力を確認する。 ・自身の予想や仮説をもとに実験・観察を行い、得られた結果をもとに考察を行わせる。 ・小テストや週末課題などを定期的に行い、基礎的な知識の定着を図る。 ・話し合い活動や教え合い活動を行う中で、自身の意見をまとめたり、他者の意見を注意深く聴く力を磨き、思考力を身につける。	・単元のはじめと終わりにマインドマップを作成し、学習前と学習後にどのような変化があったのかを確認させる。 ・1・2年生の復習を目的として、小テストを適宜実施する。 ・毎授業の始めに予習とを行い、基礎知識習得を徹底する。 ・実験・観察の授業回数を増やす。さらに、その時間の目的や、それぞれの実験操作の意味を全体にしっかりと理解させ、目的意識を持って取り組めるようにする。 ・スクールタクトを用い、基礎基本の徹底を行う。
社会	・資料から必要な情報を読み取ることに課題が見られるため、グループ単位で資料から読み取れることを話し合う活動を取り入れる。 ・学んだ内容を自分の言葉でまとめる力に課題があるため、毎時間授業のまとめを書く。よくまとめられている生徒に発表してもらったり、書き方のコツを教えるなど、教え合い学習を取り入れる。 ・語句の暗記にとどまる傾向があるため、各単元に【単元を貫く問い】を設定し、数回の授業をまとめて答えに辿り着けるような授業を構成する。 ・社会科に対する好奇心が低い生徒が見られるため、意欲を高めるための手立てとして、身近なテーマや驚きのある資料を用意し、知的好奇心を高められるような導入の工夫をする。	・書くことに苦手意識を持ったり書くことが遅い生徒もタブレットを使用することで意欲的に取り組む生徒が増えている。 ・資料の読み取りを苦手としている生徒が多いため、授業内での発問や課題を通して、読み取りの力を高める取り組みを行っている。しかし、資料を現代の課題などと結びつけて判断する力は低い。日頃から、最新のニュースや資料を基に、意欲を高められるように導入を工夫していく。 ・タブレットを活用し、調べ、まとめる技術がついてきている。テーマを複数に分け、自らが調べた内容を班で共有することにより、生徒同士の教え合いの場を作り、交流による知識の定着をはかる。	・タブレットを活用して調べ学習を行う際、異なる資料や様々な立場からの意見をまとめ、それぞれの立場でプレゼンし合うなどの教え合い学習を取り入れ、高め合う力をはぐくむ。 ・タブレットを活用し、調べたりまとめたりする力は付いてきているが、既習の内容や現代の課題と関連づけて考える力は弱い。授業で意識的に地・歴・公の各分野やニュースとの繋がりを伝えていく。 ・グラフ、図表の読み取り問題の得点率が低いので、練習問題などを通して、読み取りの力を高めていく。 ・基本的事項の定着が不十分なので、小テストなどを活用して理解力を高めていく。
英語	・帯活動を取り入れ、既習した文法事項を含む英文を繰り返し音読させる。 ・ペア、グループワークを充実させ、効果的な教え合いが出来る基盤を作る。 ・身近な話題を中心に自己表現活動を定期的に行う。 ・プレゼンテーションを行い、既習の内容を使って自己表現の機会を設ける。 ・文法ノートなどを作成し家庭学習を支援する	・帯活動を取り入れ、既習した文法事項を含む英文を繰り返し音読させる。 ・ペアやグループでの活動を中心に授業を構成し、生徒同士の教え合い学習が成立するよう支援する。 ・デジタル教材を活用し、視覚情報から理解を促す授業を組み立てる。 ・英語を使ったプレゼンテーションを行い、既習内容を使った自己表現の機会を設ける。	・帯活動を取り入れ、既習した文法事項を含む英文を繰り返し音読させる。 ・レッスンごとに単元テストを実施し、学習内容の理解度を上げる。 ・ペアやグループで長文読解や音読練習を行うなど生徒同士の活動を増やす。 ・プレゼンテーションを行い、既習内容を使って自己表現の機会を設ける。 ・週末課題を出し、家庭学習の習慣を身に付けさせる。